

銀賞 青木 潤君

北海道大学工学部建築都市学科 風の漙る寂景

室蘭という地において鉄を題材に建築化している。私個人としては「金」を付けたのだが、惜しくも、銀賞になってしまった。形態といい、機能といい、都市や建築そのものの連続的なあり様はすごく心地よい。建築が忘れてならない「ベーシック」と云うものを表現されていた。銀の「INSTALL」と比較してみると歴然でコンセプトは面白いが、住めない、又は住みたくないという基本的なものがある、難しい話だが現代建築の両端を見る様であった。あえて言うならば、「風の漙る寂景」はタイトル通り少し寂しい感じがした。それはスケール感と平面にある気がしているのだが、私だけだろうか。

(文責：中山 眞琴君)

